

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



かけがえのない仲間たちとの出会いに感謝！

日本各地に仲間ができた東京勤務

関西、もっと言えば兵庫県でしか暮らしたことのなかった私が、突然東京で働くことになったのは2017年4月のことでした。当時のクレア企画調査課には北は東北、南は九州までの職員が集まっていて、とてもノリのよいメンバーでした。「海外で日本をPRするためには、まず自分たちが日本のことを知らなければならない！」という大義名分のもと、地元出身者がその地を案内する「ふるさと旅」を始めました。ロンドン事務所に赴任してから日本を紹介するイベントを担当することになったのですが、このふるさと旅は本当に役に立ちました。

企画調査課メンバーとは、今でも飲みに行ったり、仕事に関する情報交換をしたりと交流が続いています。

英国の仲間から教わった大切なこと

ロンドン事務所赴任後は、イベントのほか職員研修も担当しました。現地の自治体を訪問してその取組を教えてくださいなのですが、住宅政策の話をした際、ある1つの通りだけで100を超える違う言語を話す人たちが住んでいると聞いたときは驚きました。世界には数千もの言語があるとはいえ、ここまで多様だとは・・・！

当時ダンスレッスンに通っていたのですが、確かに、イギリスのみならず、スウェーデン、フランス、スーダン、ギリシャ、香港などさまざまな国から来た人たちが参加していました。そのような生活の中で気づいたことは、言語はコミュニケーションツールの1つにすぎないということでした。日本人は完璧を求めがちですが、話すだけでなく、実際にやって見せることや表情だけでも多くのことが伝わります。イギリスでの実体験から、「関西人のコミュニケーション能力は国境を超えられる！」とよく知人たちを鼓舞していますが、関西人でなくても、

(一財)神戸観光局 宇野 真由美 (兵庫県から出向)
好奇心や伝えたい気持ちが強くて、フレンドリーなマインドと笑顔があれば、誰とでも仲良くなれますよ。



ダンス仲間たちと
ダンス自体もコミュニケーションツールの1つと言える。

また、日本人であること自体が誰かの助けになることを教えてくれたのもイギリスの仲間たちでした。ロンドン事務所の先輩が誘ってくれたランゲージエクスチェンジ(言語交換)の会に行った際、日本語を勉強している外国人がこんなにもいるのかと感動したものです。そこに参加している外国人にとっては、日本人の私たちと話すこと自体が貴重な学びと実践の場になっていました。

面白いことに、日本語に関する彼らの質問に触発され、私自身も日本語に興味を持つようになりました。その結果、ロンドンで日本語教師の資格を取り、帰国してからは、地域の在住外国人にボランティアで日本語を教えています。

東京、ロンドンで出会った人たちとの化学反応により、クレアに派遣される前には想像もつかなかった人生を歩み始めました。かけがえのない出会いに感謝です。

プロフィール・ほか

- クレア在籍時の所属
2017年4月～2018年3月 本部総務部企画調査課
2018年4月～2020年3月 ロンドン事務所